

2016年1月6日

各 位

大阪信用金庫
理事長 樋野 征治

定例調査：第166回 景気動向調査（10～12月期）

☆「足踏みから上昇へ」 売上D I +3.5 ㊦ 収益D I +3.9 ㊦
☆設備投資「実施・予定」 16.7%に上昇
☆長期化する「人手不足」 建設業 44.3% 運輸業 43.1%
☆冬季賞与 59.6%が支給 前年比+2.1 ㊦

●「足踏みから上昇へ」 売上D I +3.5 ㊦ 収益D I +3.9 ㊦

総合では、売上D Iが△3.8（前回比+3.5 ポイント）、収益D Iが△6.8（前回比+3.9 ポイント）となり、売上D I・収益D Iともに前回調査から上昇し、2014年12月期（売上D I △4.3、収益D I △8.9）をも上回っています。売上D Iが上昇したのは、サービス業（前回比+7.6 ポイント）や運輸業（前回比+6.2 ポイント）、製造業（前回比+5.7 ポイント）、卸売業（前回比+5.1 ポイント）、建設業（前回比+3.6 ポイント）です。

しかし、3月期の見通しが上向くのは小売業や飲食業、不動産業の3業種で、他は慎重な構えを見せています。ホテルや旅館などの宿泊業では、外国人観光客の増加で活況を呈しています。また飲食業では、今後も観光客の増加に期待していると思われます。

●設備投資「実施・予定」 16.7%に上昇

設備投資は、「実施中」が8.5%（前回比+0.2 ポイント）、「予定あり」が8.2%（前回比+0.3 ポイント）となり、「実施中」と「予定あり」の合計は前回調査から0.5ポイント増加し、全体では依然堅調に推移しています。特に、製造業は17.7%、サービス業は17.3%、建設業は16.8%となり、これらの業種では設備投資意欲は旺盛です。

●長期化する「人手不足」 建設業 44.3% 運輸業 43.1%

経営上の問題点は、総合では「売上の停滞・減少」が51.3%、「価格競争の進展」が41.9%、「競争の激化」が39.4%となりました。業種別では、「人手不足」は建設業で44.3%、運輸業で43.1%となり人件費の高騰は続いています。また、飲食業では「仕入単価の上昇」は54.9%（前回58.2%）とやや落ち着きましたが、バターや生乳価格は高騰し、依然最大の問題点となっています。

●冬季賞与 59.6%が支給 前年比+2.1 ㊦

冬季賞与の支給について59.6%が支給すると回答し、前年比+2.1ポイントとなりました。業種別では、運輸業で賞与を支給する企業は75.4%（前年比+17.3ポイント）となり、長期化する人手不足から一時金を支給する企業が増加したと思われます。

調査時点：2015年11月下旬

対象期間：2015年10～12月（実績） 2016年1～3月期（見通し）

対象企業：当金庫お取引先1,792社（大阪府内、尼崎市）

回答企業数：1,245社（回答率69.4%）

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）

TEL: (06) 6211-2921 FAX: (06) 6211-2930

E-mail: souken@osaka-shinkin.co.jp

URL <http://www.osaka-shinkin.co.jp>